

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球大学学術リポジトリ事業推進の取組み

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学総合情報処理センター 公開日: 2008-08-15 キーワード (Ja): キーワード (En): institutional repository, self-archive, metadata, historical rare materials 作成者: 伊波, ひとみ, 高橋, 輝 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/6947">http://hdl.handle.net/20.500.12000/6947</a>

## 琉球大学学術リポジトリ事業推進の取組み

伊波ひとみ、高橋輝  
琉球大学附属図書館

### 1. はじめに

琉球大学は、2006年度より国立情報学研究所を中心とした次世代学術コンテンツ基盤共同構築委託事業に参画し、2007年3月1日に「琉球大学学術リポジトリ」（以下「本学リポジトリ」という）の試験公開を開始した。本学リポジトリは、2007年11月16日に正式運用を開始したところである。

本稿は、2006年から今日までのおよそ2か年間かけて構築した本学リポジトリの概要について、具体例を提供しながら紹介することを目的とする。

### 2. 本学リポジトリの特徴

#### 2.1 琉球大学の「知」を世界と共有<sup>1)</sup>

本学リポジトリは、本学の教育研究活動等にオンラインでいつでも誰でもアクセスすることができるように、琉球大学が責任を持ってこの教育研究活動等を収集し、蓄積し、無償で公開するなどの運営を行うサービスである。琉球大学において産出された様々な教育研究活動を埋もれさせることなく世界に向けて発信し、教育研究活動のショウウィンドウとしての役割を果たすものである（図1）。



リポジトリ repository

||

容器，倉庫，（資源・知識・情報の）宝庫

図1 琉大の「知」を世界と共有

## 2.2 3つの「S」が学術リポジトリの要<sup>1)</sup>

本学リポジトリの核になるのが、Save、Share、Searchの「S」から始まる3つのキーワードである。学内で産出された教育研究活動を保存・蓄積し（Save）、これらを無償公開して世界と共有（Share）、そして世界中の利用者から検索され（Search）、閲覧されることで琉球大学の「知」を世界に還元することができる（図2）。



図2 3つの「S」が学術リポジトリの要

## 2.3 学術リポジトリのメリット<sup>2)</sup>

学術リポジトリは日本国内だけでなく、世界各国の教育研究機関において続々と導入されている。学術リポジトリの導入により、投稿者、地域社会、大学全体のそれぞれに次のようなメリットの存在が確認されている。

### 2.3.1 投稿者にとって

- ・ Google 等の検索エンジンからの検索率がアップし、しかも論文に直接ヒットする。
- ・ 民間の研究者の目に触れやすくなり、共同研究等の持込の可能性が増える。
- ・ 個人の電子書庫としての面も持ち合わせるため、研究業績の散逸を防ぐことができる。

### 2.3.2 地域社会の人々にとって

- ・ 自宅に居ながら普段接することのできない大学の「知」に触れることができる。
- ・ 大学の保有する貴重資料の電子画像を、検索エンジンで見つけることが容易になる。

### 2.3.3 大学にとって

- ・ 大学の教育研究活動等を国内外に知らせることが促進されるようになるため、ひいては大学の社会的説明責任を果たすことができるようになる。これにより教育研究情報拠点としての大学の存在感も高まる。

### 3. 本学リポジトリホームページおよび広報グッズの作成

ロゴマークも含め、本学リポジトリトップページ（図3）を本学リポジトリ事務局員が自力でデザイン化した<sup>3)</sup>。また、広報グッズとして、パンフレットと“うちわ”を作成した。



図3 本学リポジトリトップページ  
(URL: <http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp>)

パンフレットの内容の一部は、前掲 2.1、2.2、2.3 で示した。

“うちわ”は、パンフレットの原案を策定する過程で本学リポジトリ事務局員が発想したものである<sup>4)</sup>。そのスタイルは次のようなものである（図4）。



図4 本学リポジトリ紹介“うちわ”

#### 4. セルフアーカイブ機能の追加

本学は、研究者自らがオンラインで直接本学リポジトリへ投稿できる「セルフアーカイブ」機能を2007年11月16日の正式運用にあわせて追加した。なお、ユーザ認証については、本学総合情報処理センターと連携した統合認証機構を採用した。セルフアーカイブの手順は、次のようになっている<sup>5)</sup>。

まず、本学リポジトリトップページ上の「マイリポジトリ」をクリックしてセルフアーカイブへのログイン画面を開く(図5)。



図5 トップページから「マイリポジトリ」へ

次に、ユーザ ID（本学では総合情報処理センターから付与されたメールアドレス）とパスワードを入力してログインする（図6）。ただし、本学リポジトリでセルフアーカイブを行う場合は、あらかじめ「登録者申請書」を本学リポジトリ事務局まで提出する必要がある。「未登録の方はこちらをご覧ください」とあるのは、その意味である。

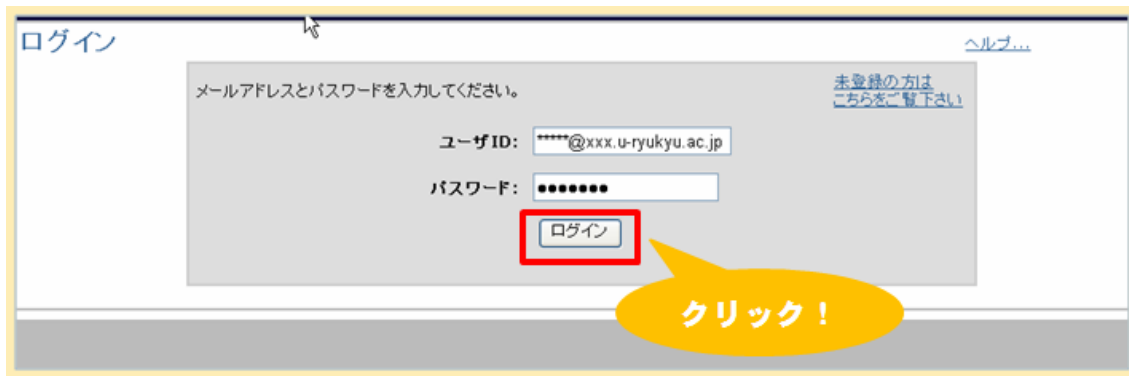


図6 「マイリポジトリ」内のログインページ

本学リポジトリにログインができる状態になったら、さっそくログインしてみる。「新規登録」のボタンをクリックするところから投稿の手続きが始まる（図7）。コレクション名は、「(投稿受付用コレクション)」として、「次>」をクリックする。

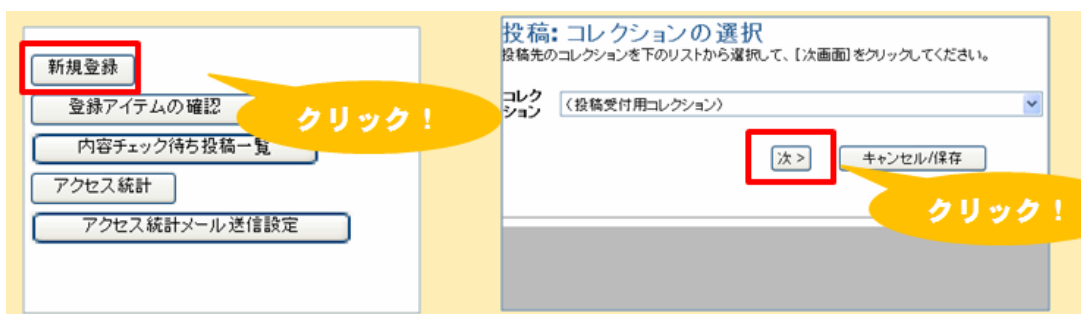


図7 ログイン後のページ

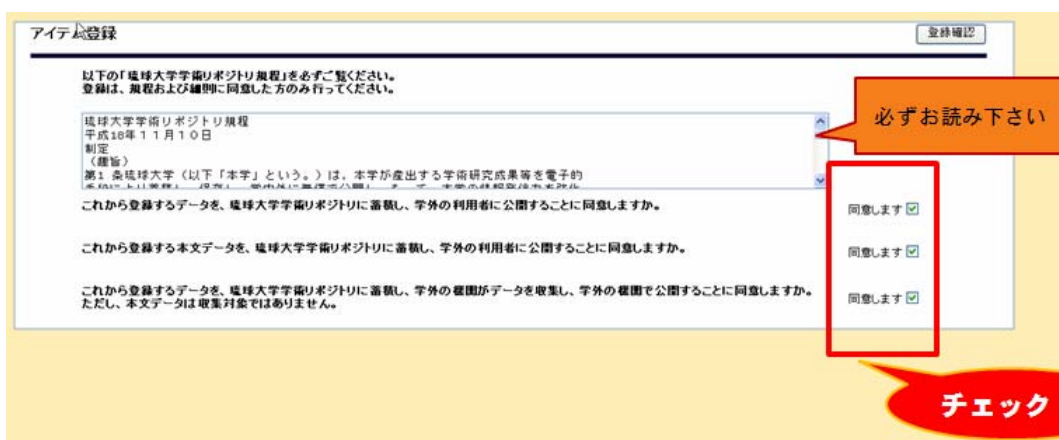


図8 関係規程への同意チェック



本学リポジトリ規程、公開範囲についての同意条件を一読のうえ、チェックする(図8)。投稿する成果物のデータを入力する(図9)。タイトル、著者名、発行日は、必須項目のため、記入忘れの無いようにする。収録種別などの必須項目以外の項目は、公開前に本学リポジトリ事務局が記入するので、そのままにしておいて差し支えない。

1. タイトルと著者名を入力してください。(タイトルと著者名は必須項目)

タイトル

タイトルよみ

別言語のタイトル

著者名

例:「山田, 太郎 / 山田, 花子」(姓と名をカンマとスペースで区切り、著者名と著者名の間をスペーススラッシュスペースで区切って繰り返してください)

4. 発行日を入力してください。

発行日

5. 本文の種別を選択してください。

収録種別

**タイトル・著者名・発行日以外は任意です**

図9 投稿論文のデータ入力画面

アップロードするファイルの形式は問いません(公開時にリポジトリ事務局でPDF形式に変換します)

11. 登録する本文データを選択してください。

ドキュメントファイル: C:\Documents and Settings\次学図書館と学術リポジ... 参照...

ファイル記述:

ファイルの追加

登録確認

**さいごに「登録確認」をクリック!**

ファイルが複数ある場合は「ファイルの追加」ボタンをクリック

図10 アップロードするファイルを指定する画面

データを入力したら、「参照」ボタンでアップロードするファイルを指定して、登録確認ボタンをクリックする(図10)。アップロードするファイルの形式は問わないが、本学リポジトリ事務局では、現在のところ、公開時にPDF形式に変換している。

登録確認ボタンをクリックすると、登録内容の確認画面が表示され、内容を確認したら、

「登録」ボタンをクリックし、アップロードする（図11）。本学リポジトリ事務局によるデータ内容確認が終わると、公開される。公開時には、投稿者に電子メールでその旨が通知される。

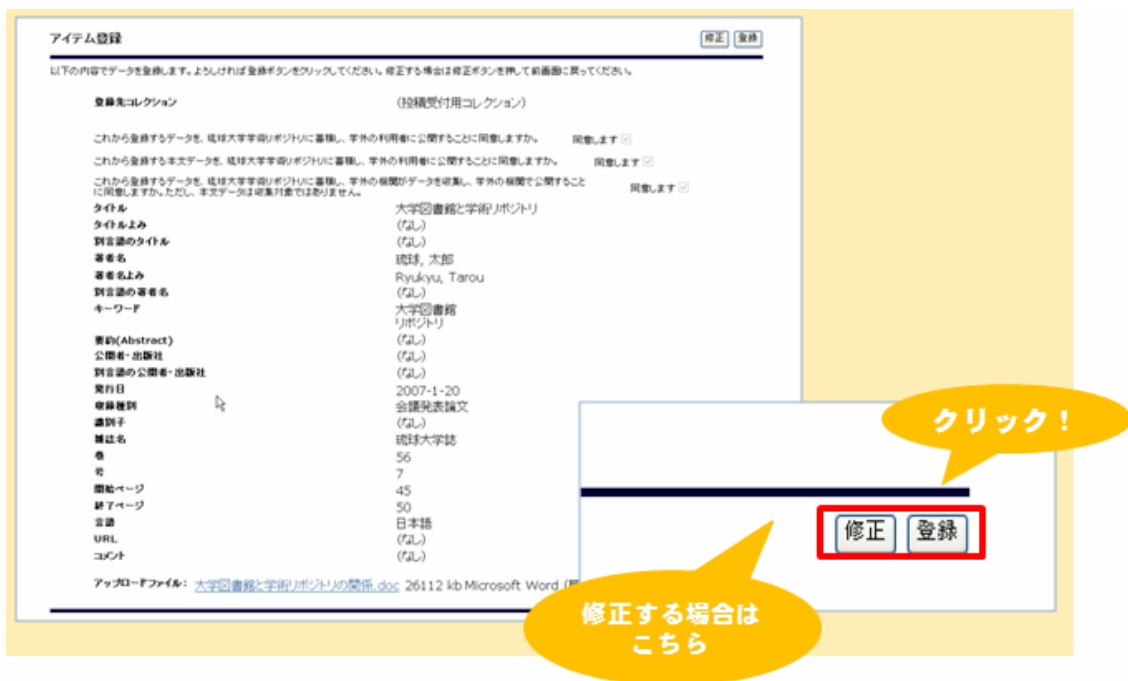


図11 登録内容の確認画面

本学リポジトリでは、自分の成果物がどのようにアクセスされているかを知ることができる（図12）。また、アクセス統計を定期的にメールで受け取るサービスを設定することもできる。



図12 アクセス統計設定画面



5. 活動の透明性を高める努力

リポジトリ事業活動情報の全面的な公開は、本学リポジトリの特徴である（図13）<sup>9)</sup>。

これは第一に、本学リポジトリ事業に係る一連の文書や資料を内外に公開し、情報を共有させることにより、本学リポジトリ事業の透明性を高めることにある。

第二に、我が国内および世界のリポジトリ関係者とリポジトリに係る情報を共有することにより、世界のリポジトリシステムの改善および推進に寄与させるためである。

The screenshot shows the homepage of the University of the Ryukyus Repository. The header includes the university logo and the text '琉球大学学術リポジトリ University of the Ryukyus Repository'. Below the header is a navigation bar with links for Home, Overview, My Repository, FAQ, English, Attached Documents, University of the Ryukyus, and Contact Us.

The main content area is titled 'コンテンツの検索 関連資料' (Content Search Related Materials). It features a search box and a list of categories on the left: 法文学部, 教育学部, 理学部, 医学部, 工学部, 農学部, COE, 教育研究施設, ご案内, 学内研究者の方へ, 利用統計, 関連資料, 関係リンク.

The '関連資料' (Related Materials) section is expanded, showing a list of documents:

- リポジトリ関連規則等**
  - 1. 琉球大学学術リポジトリ規程(PDF)
  - 2. 琉球大学学術リポジトリ投稿規則(PDF)
- 投稿依頼**
  - 1. 琉球大学学術リポジトリへの研究成果等の投稿について(依頼)(PDF)
  - 2. 琉球大学学術リポジトリへの研究成果等の投稿資料の提供について(依頼)(PDF)
- チェックシート・許諾書**
  - 1. 登録許諾書 兼 チェックシート(PDF)/(Excel)
  - 2. 登録許諾書(紀要論文一括許諾)(PDF)
  - 3. 登録許諾書(博士論文)(PDF)/(Word)
  - 4. 共著者許諾確認の例文(Text)
- 説明会資料(2006年12月7日開催)**
  - 1. 学術リポジトリ説明会開催通知(PDF)
  - 2. 学術リポジトリ説明会ちらし(PDF)
  - 3. 学術リポジトリ説明会ポスター(PDF)
  - 4. 学術リポジトリ説明会パワーポイント資料(PDF)/(PPT)
  - 5. 学術リポジトリ説明会配布資料(リポジトリ概要)(PDF)
- 国際講演会資料(2007年2月23日開催)**
  - 1. 学術リポジトリ国際講演会開催通知(PDF)
  - 2. 講演「近未来図書館サービスとしての機関リポジトリの可能性」(延世大学校附属中央図書館長・金泰樹)
  - 3. 報告「琉球大学学術リポジトリ年度報告2006-2007」(琉球大学学術リポジトリ事務局)
  - 4. 学術リポジトリ国際講演会ポスター(PDF)
  - 5. 学術リポジトリ国際講演会参加者総数(Text)
- 公開記念講演会「貴重資料と機関リポジトリ」(2007年11月16日開催)**
  - 1. 学術リポジトリ公開記念講演会開催通知(PDF)
  - 2. 学術リポジトリ公開記念講演会ポスター(PDF)
  - 3. 講演「沖縄関係貴重書の公開と電子情報化」(琉球大学教授・赤嶺守)
  - 4. 講演「矢内原忠雄文庫のデジタル化の意義」(法政大学教授・今泉裕美子)
  - 5. 講演「延世大学校附属中央図書館古文書資料の電子化」(延世大学校中央図書館・金永元、許永錫)
  - 6. 講演「貴重資料と機関リポジトリ」(琉球大学附属図書館・高橋輝)
- 経緯説明資料**
  - 1. 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業委託事業への応募について(PDF) (2006年5月8日付け、理事等への説明文書)
  - 2. 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業の受託について(PDF)

図13 関連資料画面

## 6. 公開記念講演会の開催

本学は、2007年11月16日に「貴重資料と機関リポジトリ」をテーマとして公開記念講演会を開催した。

学術リポジトリには、世界中から当該論文等が検索されるようにするために論文等のコンテンツごとにその内容について国際標準の記述様式により書き込む仕組みが用意されている。一般にこの内容が記述されたものをメタデータといっている。

日本の大学等ではこれまで、貴重資料の電子化は電子画像化にとどまっていた。そのために国際的にはもとより、日本国内でも大学等で作製した貴重資料の電子画像データベースの存在は一般にはあまり知られてこなかった。

そのような状況下の2006年3月23日、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会は、学術情報基盤の今後の在り方について報告書を取りまとめた。この報告書において同部会は、「電子図書館を進めた大学図書館の多くは、大学全体の教育研究活動との直接的な連携に欠けたこと、電子化の対象資料が一部に偏ったこと、メタデータの不十分さ、検索機能の弱さなど、インターネット時代の電子情報の長所を活かしきれていないことなどの欠点が見受けられ、これらにより本来持つべき機能が十分備えられているとはいえない」と、よりいっそう具体的に、しかも直接的表現を用いて強く断ずるとともに、「歴史文書等を大学図書館で収集・電子化し、保存・公開する等、地域連携、教育研究の高度化のための貴重資料の電子化とメタデータ付与を図ることについては積極的に進める必要がある」として貴重資料の電子化に当たってはメタデータの付与を併せ行うよう求めた<sup>7)</sup>。

これを受け、本学は、本学リポジトリの正式運用を記念する講演会のテーマを「貴重資料と機関リポジトリ」とすることとしたのである。

本記念講演会により、学術リポジトリには、電子化したファイルにメタデータを付与させる仕組みがあらかじめ備わっていること、学術リポジトリ・サーバに蓄積させるので、これまでの電子画像データベースのようにデータベースごとのアクセスのストレスがないこと、バックアップ機能によりいつでも安定的に無償で情報を配信することができることなどの利点があることが確認された。

しかし一方で、メタデータのない既存の電子画像データベースに新たにメタデータを付与するという高度に専門的および学術的な作業を達成させなければならないという困難さ、学術リポジトリ・サーバに収める電子画像のファイル形式の特定の難しさ、電子画像の著作権の問題など、貴重資料を機関リポジトリに搭載しながら解決していく必要のある案件が明らかとなった<sup>8)</sup>。

今後、本学が所蔵する沖縄関係古文書資料を電子化し本学リポジトリで公開することで、国際的な琉球・沖縄研究の活性化とネットワーク化に多くの貢献をなすことが期待できる。

## 謝辞

本稿において紹介したリポジトリシステム、および引用した各種の図は、多くの本学リポジトリ事務局員の尽力によるものです。本学リポジトリホームページデザインは大谷周平氏が、“うちわ”デザインは眞喜志素花女氏が、パンフレットは伊良部哉氏が、セルフアーカイブリーフレットは稲永晶子、平山沙希、大城登樹子の3氏が、セルフアーカイブシステム構築は仲村武則氏がそれぞれ主担当となり実現したものです。ここに担当された方々の功績を記し、深い謝意を表します。

## 引用文献

- 1) 琉球大学学術リポジトリ事務局. 琉球大学学術リポジトリ概要. (online), available from <<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/ir/html/about/about.htm>>, (accessed 2007-12-13).
- 2) 琉球大学学術リポジトリ事務局. 琉球大学学術リポジトリ概要(2 ページ目). (online), available from <[http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/ir/html/about/about\\_1.htm](http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/ir/html/about/about_1.htm)>, (accessed 2007-12-13).
- 3) 琉球大学学術リポジトリ事務局. 琉球大学学術リポジトリ. (online), available from <<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/>>, (accessed 2007-12-13).
- 4) 琉球大学学術リポジトリ事務局. 琉球大学学術リポジトリ.(うちわ). 2007.
- 5) 琉球大学学術リポジトリ事務局.セルフアーカイブ手順.(リーフレット). 2007.
- 6) 琉球大学学術リポジトリ事務局. 琉球大学学術リポジトリ関連資料. (online), available from <<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/ir/html/siryu.htm>>, (accessed 2008-01-07).
- 7) 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 学術情報基盤の今後の在り方について (報告). 2006年3月23日. (online), available from <[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm)>, (accessed 2008-01-09).
- 8) 高橋輝. 貴重資料と機関リポジトリ. 2007年11月16日. 琉球大学学術リポジトリ公開記念講演会発表抄録集. 2007, p.39-48. (online), available from <<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/2647>>, (accessed 2007-12-26).

## The Action of the University of the Ryukyus Repository Promotion

IHA Hitomi and TAKAHASHI Teru

### Abstract:

This paper aims at introducing about the outline of the built the University of the Ryukyus Repository which was applied for about two years from 2006 to today, offering an example.

It is expectable to contribute many to activation and a network of international Ryukyu and Okinawa research by digitalizing the Okinawan Rare Materials which the University possesses, and opening to the public by the Repository from now on.

Keywords: institutional repository, self-archive, metadata, historical rare materials